

# 都市再生整備計画

くまがやしちゆうしんしがいちちく  
熊谷市中心市街地地区(第2期)  
だい かいへんこう  
(第3回変更)

さいたまけんくまがやし  
埼玉県熊谷市

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	埼玉県	市町村名	熊谷市	地区名	熊谷市中心市街地地区(第2期)	面積	113 ha
-------	-----	------	-----	-----	-----------------	----	--------

計画期間	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度	交付期間	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度
------	---------------------	------	---------------------

### 目標

大目標 埼玉県北部地域の中核都市として環境にやさしく、暮らしやすく、魅力ある中心市街地を目指す

目標1 道路環境の改善等により、誰でも安全・快適に移動できる道路環境・交通体系を構築し、交通利便性の高い都市環境を目指す。

目標2 生活関連施設や歴史・文化資源等を結び歩行者及び自転車のネットワークを構築し、中心市街地の交流人口の増加とにぎわい再生を目指す。

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

##### ○市概要

本市は、都心から50～70kmの距離に位置する面積159.88km<sup>2</sup>、人口20万人を超える埼玉県北部地域の中核都市である。平成17年に熊谷市、大里町及び妻沼町と合併し、その後、平成19年2月に江南町を編入し、埼玉県北部地域で唯一の20万都市となった。平成21年には、市民サービスの向上を図りながら地方分権を推進していくため、より自立性の高い権限を持つ「特例市」へ移行した。

市の南部に荒川、北部に利根川が流れ、市域のほとんどが平坦な地形であるが、荒川右岸は比企丘陵の北麓にあたり、比較的標高が高くなっている。気候は、内陸性の太平洋側気候で、夏季は高温多湿、冬季は低温乾燥で北西の季節風が強い。また、年間を通して快晴日の多い気象特徴をもっており、平成13年～平成22年の10年間で、7度も年間快晴日数日本一となっている。さらに、夏の暑さが全国的に有名であり、平成19年8月16日に、74年ぶりの国内の最高気温記録更新となる40.9℃を記録した(平成25年3月時点)。

本市では、全国的な知名度を誇る夏の暑さを逆にとり、貴重な地域資源としてプラスにとらえることで、市全体で暑さを楽しみつつ積極的にまちづくりに活かしていく「あついで！熊谷」事業を平成17年度から広く展開している。また、平成20年度からは、暑さから市民を守るとともに、暑さを活用した地域活性化や、環境共生型ヒートアイランド対策として「あつばれ！熊谷流プロジェクト」に取り組んでいる。

さらに、地球温暖化の主要因となっているCO<sub>2</sub>排出量の約半分が都市活動により排出されていることに着目し、『まちづくりの視点』から地球温暖化対策の取組を推進すべく、先導的都市環境形成促進事業として、平成22年10月に中心市街地の都市環境改善についての取組の方向性を示した「熊谷市都市環境改善基本計画」を策定した。現在、本計画に基づき「環境への負荷が少ないひと中心のまちづくり」を理念とした、『エコまちづくり熊谷』の実現を目指し、市民、事業者、行政等がそれぞれの役割のもとに連携し、協働して取り組んでいる。また、ラグビーワールドカップ2019の開催都市となっており、多くの観光客が訪れることが見込まれる。

##### ○当該地区概要

本地区は、市の中央エリアに位置しており、JR上越・北陸(長野)新幹線、JR高崎線、秩父鉄道の鉄道3線が乗り入れる熊谷駅を中心とした都市機能が集約された都市活動の中心地区である。古くから広域における連携拠点としての整備が進められ、熊谷駅東地区市街地再開発事業による再開発ビルと熊谷駅東口駅前広場の整備など、埼玉県北部地域の拠点としてふさわしいまちを目指すべく、さまざまなまちづくりの取組が行われている。平成20年度からは、中心市街地における道路空間整備方針の策定に向けて、国、警察、県、地元、市が一体となった「熊谷市道路空間整備推進委員会」を設置し、熊谷駅を中心とする国道17号を含む道路網におけるバリアフリー整備、自転車通行環境整備、景観整備の三位一体となった「熊谷市中心市街地道路空間整備計画(案)」を策定し、平成26年3月には、「熊谷市バリアフリー基本構想」を策定した。また、本地区は平成21年3月に策定した「熊谷市景観計画」の中で、「熊谷市中心市街地にぎわい景観誘導地区」に選定しており、先導的に景観形成に取り組む地区として、既存の景観資源の活用や新たな景観資源の創出により、にぎわいが感じられる景観形成を図ることが期待される地区として位置付けている。さらに、『【つながり】と【おもてなし】で築く、広域拠点都市くまがや』を基本理念とする、「熊谷市中心市街地活性化基本計画(案)」に基づき、中心市街地のにぎわい再生を目指してさまざまなまちづくり活動が行われている。

#### 課題

- ・熊谷市の中心市街地、ラグビーワールドカップ2019開催都市、また埼玉県北部地域の商業・業務の拠点としてふさわしい魅力ある都市環境の整備が求められている。
- ・高齢者や子ども、障がい者を含め、誰でも安全・快適に移動できる移動空間の整備と、中心市街地におけるバリアフリー環境整備の推進が求められる。
- ・歩行者と自転車それぞれの移動における安全性・回遊性の向上が求められている。
- ・『環境への負荷が少ないひと中心のまちづくり』の実現のため、ヒートアイランド現象等の都市環境問題の改善、環境負荷の少ない移動手段への転換が求められている。
- ・人口減少、少子高齢社会、ドーナツ化現象といった社会問題や都市問題への対策として、地区内の定住人口及び交流人口の増加とにぎわい再生が求められている。
- ・ラグビーワールドカップ2019開催に向け、早急にインバウンドの促進が求められている。

#### 将来ビジョン(中長期)

- ・道路空間の再配置、公共交通の拡充、バリアフリー環境整備、「あつばれ！熊谷流プロジェクト」を推進し、『快適で回遊したくなるまち』を目指す。
- ・「熊谷市都市環境改善基本計画」(平成22年10月策定)の、『環境への負荷が少ないひと中心のまちづくり』を理念とした、『環境にやさしく、暮らしやすく、魅力ある中心市街地を目指す』という基本方針の実現を目指す。
- ・北部地域振興交流拠点施設(仮称)を『時代の【変化】に対応し、人と施設が【成長】する創造拠点』とし、埼玉県北部地域の商業・産業の中心となる地域活力あふれる都市の実現を目指す。
- ・優良建築物等整備事業をはじめとする、民間活力を活用した良好な住環境の創出や住宅供給の促進を通じて、地区内の定住人口の増加を目指す。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値	
			従前値	基準年度	目標年度	目標年度
歩行者・自転車通行環境の満足度	%	まちなかにおける歩行者・自転車通行者を対象とした通行環境の満足度調査	55%	平成21年度	62%	平成33年度
歩行者・自転車通行量	人	事業実施により効果が期待される回遊動線上の地点での休日の歩行者・自転車通行量	18,830人	平成27年度	25,000人	平成34年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 道路環境の改善等により、誰でも安全・快適に移動できる道路環境・交通体系を構築し、交通利便性の高い都市環境を目指す。                      ・市道80541号線の道路環境の改善に併せて、周辺道路の道路環境の整備、改善を行う。</p>	<p>【基幹事業】                      ○高質空間形成施設(市道80541号線/バリアフリー整備事業)</p>
<p>整備方針2 生活関連施設や歴史・文化資源等を結ぶ歩行者及び自転車のネットワークを構築し、中心市街地の交流人口の増加とにぎわい再生を目指す。                      ・生活関連施設等を結ぶネットワークの構築を進め、中心市街地内の回遊性を高める。                      ・中心市街地内での歩行者及び自転車通行の安全性・快適性を高め、より回遊しやすいまちを目指す。                      ・中心市街地内に残る歴史的資源を結ぶネットワークを構築し、交流人口の増加とにぎわいの創出を目指す。                      ・中心市街地における商業核施設であるTiara21とニッソーモールを結ぶ連絡歩道橋にシェルターを設置し、商業ネットワークの強化と歩行者の利便性向上を目指す。</p>	<p>【基幹事業】                      ○高質空間形成施設(Tiara21～ニッソーモール連絡歩道橋:歩行支援施設整備事業)                      ○高質空間形成施設(市道80039号線、市道80007号線、市道50359号線:自転車通行環境整備事業)                      ○高質空間形成施設(熊谷駅正面口駅前広場歩行支援施設整備事業)                      ○高質空間形成施設(熊谷駅南口駅前広場公衆トイレ障害者誘導施設整備事業)                      ○道路(市役所通線:自転車通行環境整備事業)                      ○地域生活基盤設備(歩行者案内施設整備事業)                      ○地域生活基盤整備(熊谷駅正面口駅前広場案内施設整備事業)</p> <p>【提案事業】                      ○まちづくり活動推進事業(「景観とおもてなし」事業)</p> <p>【関連事業】                      ○熊谷市道路空間形成事業(事業主体:国)                      ○熊谷市自転車シェアリング事業</p> <p>【関連事業】協定制度                      ○熊谷市まちなかコミュニティサイクル社会実験(サイクルポートの整備・管理)</p>
<p>その他</p>	
<p> </p>	





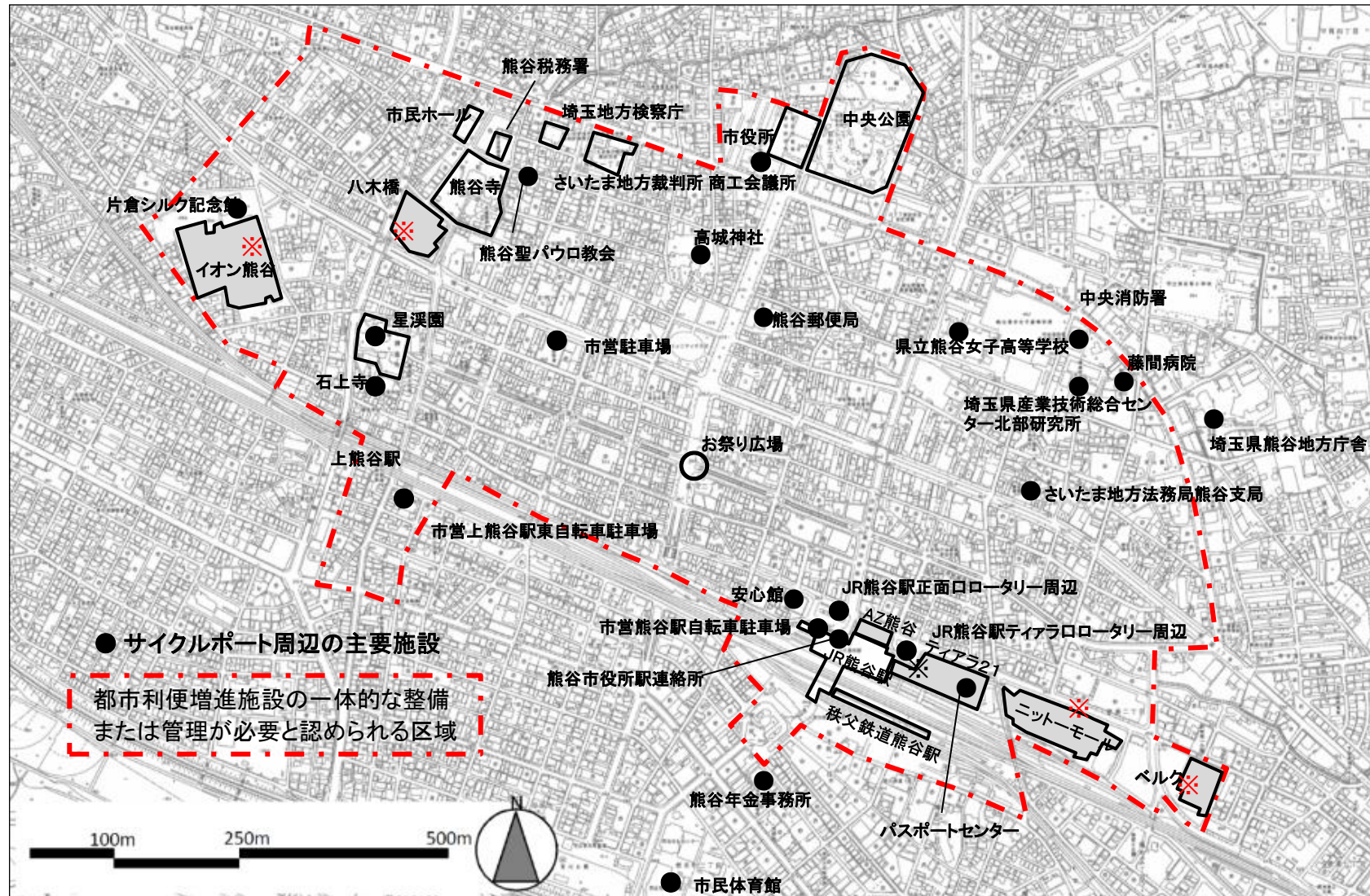
制度別詳細4(利便増進協定に関する事項)都市再生特別措置法46条13項□

制度の活用			
事業内容	事業期間	取り組み主体	活用する制度の詳細
1	自転車駐車器具(サイクルポート)の整備一管理	株式会社まちづくり熊谷(推進法人)	1. 協定締結者 株式会社まちづくり熊谷(平成〇〇年〇月〇〇日に都市再生整備推進法人に指定)、施設所有者
2			2. 都市利便増進施設の一体的な整備又は管理が必要と認められる区域(都市利便増進協定を想定している区域) 次ページの赤枠の範囲
3			3. 協定の内容 (1)協定の目的となる都市利便増進施設 ・サイクルポート
4			(2)費用負担 ・推進法人がコミュニティサイクル社会実験を実施し、その収益を充当する。
5			(3)都市利便増進施設の整備一管理の方法 ・推進法人が共同で社会実験を実施する民間事業者とともに維持管理を実施する。
6			
7			
8			

制度別詳細4-1(都市利便増進協定に関する事項)

制度別詳細【都市利便増進協定】

制度を活用して整備・設置する施設等の配置を示す地図及び設置イメージ





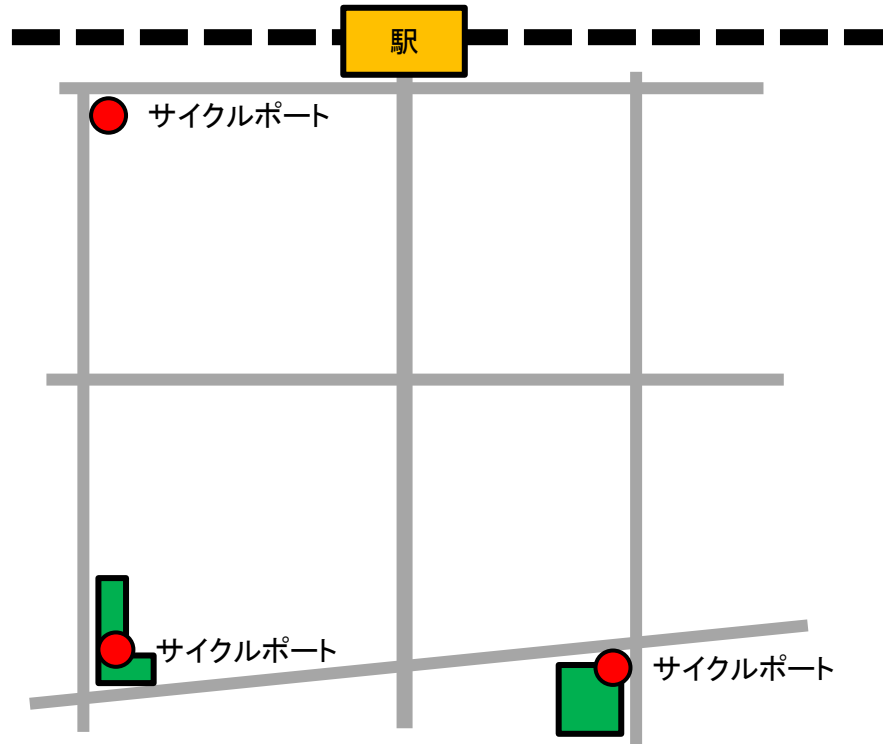
制度別詳細4-2(都市利便増進協定に関する事項)

都市利便増進協定の参考

制度を活用して整備・設置する施設等のイメージ

都市再生整備計画（第2回変更）（案）

□コミュニティサイクル社会実験イメージ図



まちなかコミュニティサイクル社会実験  
使用自転車とサイクルポート例（川越市）



熊谷市中心市街地地区(第2期)(埼玉県熊谷市)

面積	113 ha	区域	仲町、鎌倉町、本町1～2丁目、星川1～2丁目、弥生1～2丁目、筑波1～3丁目、銀座1丁目、桜木町1丁目、宮前町2丁目、宮前町1丁目、末広1～3丁目、銀座2～3丁目、曙町1丁目、万平町1丁目、宮前町2丁目の一部
----	--------	----	--

